

隠し銃

このケースには、他の武器と組み合わせられたものも含め、珍しい銃器が展示されている。このような銃器は、暗殺などの悪事を働くため、政府の厳しい銃器規制を避けるため、あるいは単に巧妙に隠された銃に興味深く目新しかったという理由で作られた。

右端のような小型の火器は、付属のクリップを使って着物の袖に隠すことができた。また、公然と携帯できる武器として、短刀や短剣、あるいは警察官が使用するフックのついた棍棒「十手」に銃身と発射機構を組み込んだものもあった。武士は身分の証として長短二本の刀を差し、室内でも短刀を抜かないのが普通であったから、短刀や十手が疑われることはほとんどなかった。

左端にあるものは、おそらく全く携帯していなかったのだろう。その代わりに、罠の一部として使用されるように設計されている。銃身先端のレバーに取り付けられた仕掛けを引っ張ると、発射装置が作動する仕組みになっている。

展示されている隠し銃の多くは、発射装置に雷管式を使用しており、火縄銃に比べると比較的近代的な武器といえる。